

### 神奈川大学 特別招聘教授 安彦忠彦

まず、全体として、全5章にわたる教育施策は、バランスがとれていて妥当なものであり、好感がもてる。実施状況もおおむね計画通り実行されたようで、大きな問題はないように思われる。しかし、報告書の形式・内容については、毎年改善すべき点を指摘してきたことが、必ずしも十分反映されていない。改善が難しいことは理解しているが、そういう努力の跡を示してほしいので、今回も一部同じことを指摘したい。

最初に、報告書の体裁・形式について言えば、昨年度までと体裁が変わっているが、丁寧な記述であるが、一読しにくい印象がある。図表が小さくなっていて、その中の数字などが読みにくい上、文章が多く長く、詰め込み過ぎている。読んでほしければ、逆にしなければならない。また、いわゆる枕詞的な語句は不要である。

第1章については、県が実施したこと（アウトプット）ばかりが目立ち、その結果はどうだったのか（アウトカム）がはっきりしない。道徳性・社会性などは「意識レベル」と「行動レベル」との間にズレが多いのが普通なので、意識調査でよい数値が出て、実際行動にそのまま反映しているとは限らない。参加者の行動や声を拾うなど、行動面の効果を知る方法・手だてをもっと増やす必要がある。

第2章については、調査データが昨年度に比べて上昇していても、目標値に達しているのかどうかかわからないので、それで満足できるものなのかどうか不明である。「主な実績」の内容がほとんど第1章と同様アウトプットばかりなので、実際の効果は間接的ではっきりしない。とくにキャリア教育については、アウトプットもアウトカムもともに不十分のように見える。これに対して、ユネスコ・スクールやESD(持続発展教育)に力を入れて、一定の成果を挙げていることは高く評価できる。今後も環境教育と関連させてこの方向を推進し、本県教育の特色とすることができるとよい。

第3章については、種々の指導上の効果を具体的に示すために、それぞれの施策の目標を明確に打ち出す必要があり、現在のやり方では効果はあいまいにしかわからない。例えば、「学びフォーラム」への参加生徒の声を挙げていることなどは、その点でもっと他の施策でも真似をしてよい。また、全国学力・学習状況調査の結果などの場合でも、全国平均と比べるのではなく、分散などのデータも用いて、問題点の解決にどう生かすのかという調査本来の趣旨に則って、その向上を図る必要がある。

第4章については、環境学習とESDとが別立てで進められているようだが、これは地球環境全体の学習の一部として一つに括る方向を考えるとよい。かなりの施策で目標を下回っているが、その改善策についてはあまり具体的なものがないように見える。

第5章については、条件整備が中心なので、比較的アウトプットのレベルの処理で良く、成果が見えやすく、よく努力していると評価できる。

本報告書全体の調子が、当然とはいいながら、過去の施策の結果に向いているためか、今後の施策でどこに、どう改善の手を入れていくのかについての記述が明確でない。その部分について明確にする努力を示してほしい。

### 愛知淑徳大学文学部教育学科 教授 中野靖彦

1. 学校での学級編成や教員配置など、学校の裁量が拡大しているが、さらに進める必要がある。中一ギャップ等への対応には、小学校高学年での教科担任制は有効である。

健やかな子どもの成長は、体と心の健全な発達が欠かせないが、子どもたちのスポーツ実施率が低い。子ども体力向上プログラムの普及の方策が求められる。子どもの頃のスポーツ好きは生涯学習の素地になる。

また、子どもの読書活動が低下しているが、小さい頃から家庭や学校で本に親しむ雰囲気づくりが必要である。読む、書く、話すことはコミュニケーション能力の向上に役立つ。

2. 国際的で豊かな人材とは多様な価値観の‘違い’を認めることである。小学校からの英語教育の導入によって、英語に親しみ、国際社会で活躍する人材の育成が急務であるが、すべての子どもに共通の達成目標は必要ではない。小学校の英語を生かしながら高校や大学で英語を使い、将来国際社会に出て行く人材の育成を目指すコースがあってもよい。

英語の堪能な人が国際人であるとは限らない。英語で考え、判断するには外国の文化や社会を知る必要があるし、海外に出かけられる環境を整備する必要がある。

3. 小学校では、キャリア教育についての年間指導計画を立てている割合が低い。ただ、この低さだけを云々するのは早計である。義務教育段階では、まず確かな学力を身に着けること、高校では実際に体験し、将来を見据えて大学進学を考える機会が欲しい。

高校時代は興味・関心が広がる。その生徒たちの興味や関心が持てる教材の充実や教育・学習環境の一層の整備、充実が望まれる。高大連携を実施している高校は限られているが、多くの大学の協力のもと、中学、高校での学習を生かせる進路選択ができるのがよい。

4. 大人を含めて道徳のモラルが低下している。規則は守るべきだが、実際に守っている子どもは少ない。道徳教育の充実と家庭での「モラル box」の活用を広めて、家庭と学校、地域の連携がいじめ等の減少に繋がる。情報モラルの低下は、家庭での携帯の使

用ルールを決めている家庭が少ないことにも原因がある。

いじめ等の防止も早期発見が大切であり、教師一人一人だけの対応では難しい。教師間の風通しの良さ、情報の共有化が必要である。また再雇用の教員、SCやPTAを含めて学校を支援する組織があってもよい。

5. 教員の大量採用によって資質低下が懸念される。幅広い興味を持ち、実力のある教員を育てるには、在学中から学校現場と関わる機会を増やす、教育実習のインターンシップ導入もある。学校を知り、大學の授業とタイアップすることで実践的な力が身につく。

そして、教員希望者が増えるよう、教員の待遇や教育環境の改善に取り組むべきである。また、特別支援が必要な子どもが増加している。特別支援教育に関心をもった教員の養成、研修も求められる。専門性をもった教員が教員としてのアイデンティティを持つことが大切となる。

6. いま、防災に対する教育が喫緊の課題となっている。また子どもが学校の行き帰りに巻き込まれる事件が多い。事件を未然に防ぐには地域の力が必要となり、学校と地域が情報を共有して子どもの安全を守ることが重要である。

## 中部大学現代教育学部幼児教育学科教授 今川峰子

平成24年度の点検・評価報告書は、4つの重点目標と「魅力ある教育環境づくり」について、重要な事項に絞り、成果と課題、及び今後の方向性が簡潔に記述されている。その上に、全体計画の実施状況については、「施策の展開」「主な内容」「主な実績」に分け、数値を表示している点は評価できる。今後は施策事業に要した金額の記入を望む。以下は評価者としてのコメントを述べる。

### (1) 幅広い県民の参加により道徳性・社会性の向上を図る

社会問題になっているいじめについては、ちらしやシール・リーフレットの作成等により、多少の効果は認められるであろうが、もっと学校現場を中心にしたきめ細やかな対処にまで踏み込んで欲しい。いじめは教師の目が届きにくい登下校時、部活動、更衣室などで起きている。又、学級経営が困難なクラスほどルールが守られず、いじめも多くなる。市町村教育委員会と県教育委員会が協調して、実効性のある方策を講ずることを望む。

「心の教育推進活動」はいじめ・不登校とも関連するが、主に奉仕活動、福祉実践、自然とのふれあい等の活動になっている。豊かな心を培う教育を推進するのであれば、まず、「自分には良いところがある」「自信がある」など自己肯定感を持つことは、「相手に思いやりを持てるようになる」ことと、ある意味で表裏一体である。自尊感情・自己肯定感を育成し、公共心を育む道徳教育の充実が求められる。小中学生の多くは「学校のきまりを守ることは大切である」と認識してはいるものの、行動として「学校のきまりを守ってい

る」ことにつながっていない。規範意識が行動と結びつき、その上に規範を破ったことへの罪悪感（情緒）を抱くような道徳教育の授業が展開されることを望む。

#### (2) 発達段階に応じたキャリア教育の充実

何度かアメリカの有名な高校・大学を訪問した時に、中国・韓国からの留学生は多いが、日本からの留学生が少ないのに胸を痛めたことがある。コミュニケーション力としての英語教育は必要であり、その成果を期待する。次に、全国学力・学習状況調査で、「将来の夢や目標をもっていますか」との調査は全国平均を下回っている。現実を知っている児童生徒が多いとも言えるが、自分の特性・優れた点を伸ばし、夢や目標を持てるように支援できるキャリア教育が求められる。

#### (3) 学習意欲の向上・確かな学力の育成

きめ細やかな指導の充実を図るために、可能な限り学級編成の弾力化を実施して、市町村に裁量を拡大することは評価に値する。今後は、市町村教育委員会内で十分に検討されて、きめ細やかな指導が展開されることを望む。

#### (4) 豊かな人生を送るための生涯学習の充実

COP10 の開催により環境に対する意識が高まり、2014 年には愛知県・名古屋市で開催される「ESD に関するユネスコ世界会議」に向けて、小中高大学の児童・生徒・学生と教職員の参加・研修が企画されている。生涯学習の起源となる「生涯教育」は、1965 年にユネスコの委員会で、ポール・ラングランによって提唱された。貧困・戦争・人権等の解決のためには、生涯にわたっての教育の必要性を提唱したものである。豊かな人生を送るための自発的な学習だけでなく、だれもが現代社会の様々な問題に関心を抱き、学ぶ契機になるような施策を推進して欲しい。

#### (5) 魅力ある教育環境づくり

教育委員会の形骸化が批判されているが、今の教育委員会制度は首長から独立し、一般の良識ある人を加えた合議で決定される点で、望ましい制度と考える。この制度が機能するには、教育委員会の事務局が、教育委員に重要な情報を詳細に伝えることが必要不可欠である。教育委員と教育委員会事務局の緊密な情報の共有・連携を望む。

有識者意見は点検・評価報告書原案に対するものであり、本冊子には有識者の意見をいただいてから修正を加えている。

## 児童生徒への意識・実態調査 (平成24年5月)

あいちの教育に関するアクションプランⅡの計画初年度となる平成23年度の点検・評価にあたって、愛知県教育委員会では、取組の成果と課題、今後の方向性を捉える基礎資料とするため、独自に「児童生徒への意識・実態調査」を実施した。

計画の初年度が終了した時点における児童生徒の意識・実態を把握し、課題を整理するとともに、計画最終年度となる平成27年度にも同様の独自調査を実施することで、アクションプランⅡのめざす「あいちの人間像」へと繋げていくための様々な取組について、計画期間中における成果と課題を捉え、その後の方向性を検討していく。

〈めざす「あいちの人間像」〉

- かけがえのない自他の命を大切にすることのできる人間
- 自らの人生をたくましく切り拓き、社会に生かすことのできる人間
- 健やかな体をつちかい、豊かな文化を継承し創造することのできる人間
- 次代を展望し、世界に視野を広げ活動することのできる人間

調査対象児童生徒： 9,132人

- ・ 県内小学校(名古屋市を除く。)に在籍する第5学年の児童から抽出した2,959人
- ・ 県内中学校(名古屋市を除く。)に在籍する第2学年の生徒から抽出した2,824人
- ・ 県立高等学校(全日制課程)に在籍する第2学年の生徒から抽出した2,912人
- ・ 県立高等学校(定時制課程)に在籍する第2学年の生徒から抽出した326人
- ・ 県立特別支援学校に在籍する小学部第5学年、中学部第2学年、高等部第2学年の児童生徒から抽出した111人

調査時期： 平成24年5月

注) 調査結果における「小学5年生」、「中学2年生」、「高校2年生」は、調査対象児童生徒のうち、それぞれ以下の者の回答を集計した。

小学5年生： 小学校第5学年の児童と、特別支援学校小学部第5学年の児童の合計

中学2年生： 中学校第2学年の生徒と、特別支援学校中学部第2学年の生徒の合計

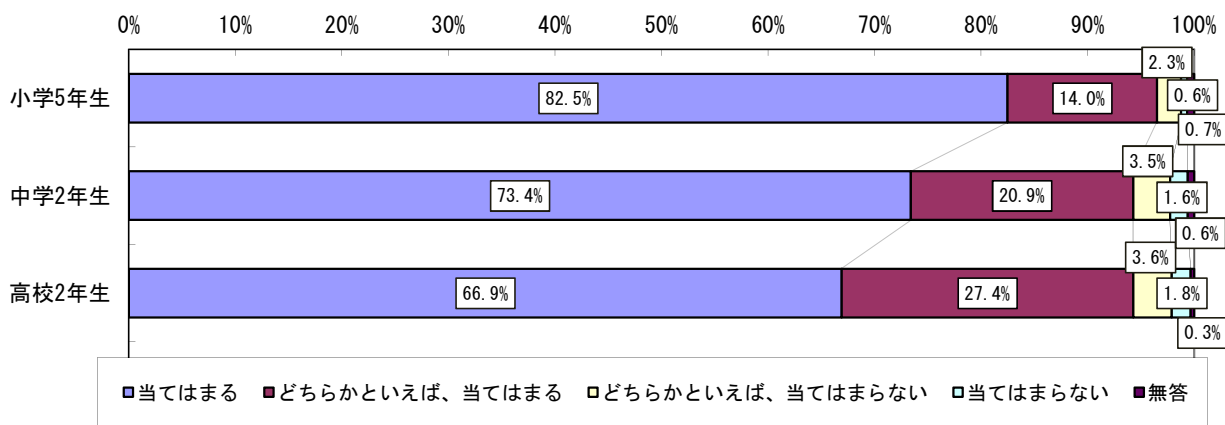
高校2年生： 高等学校(全日制)第2学年の生徒と、高等学校(定時制)第2学年の生徒と、特別支援学校高等部第2学年の生徒の合計

# 1 「かけがえのない自他の命を大切にすることのできる人間」を育てるために

## 学校で友達に会うのは楽しいと思いますか。

○「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた“当てはまる”と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 96.5%、中学2年生 94.3%、高校2年生 94.3%で、いずれも9割以上が「学校で友達に会うのは楽しいと思う」と答えた。

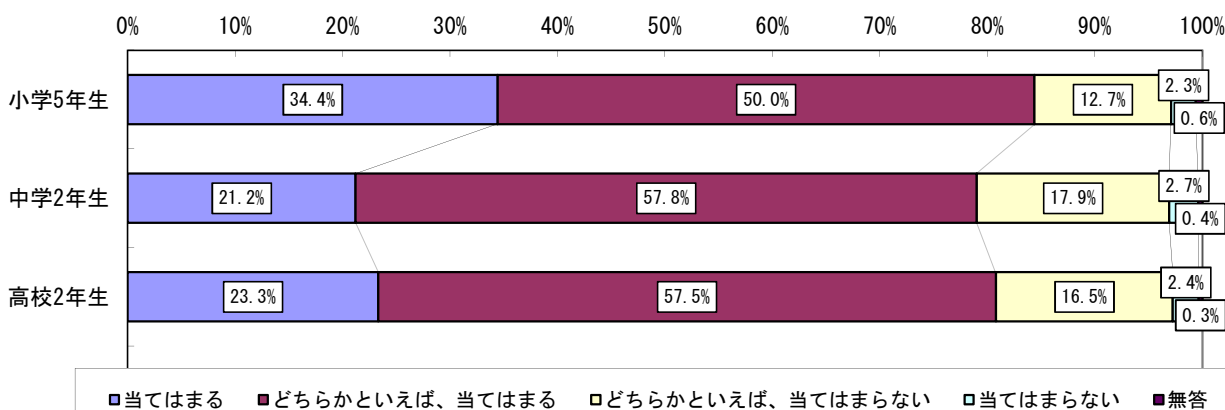
○このうち、「当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 82.5%、中学2年生 73.4%、高校2年生 66.9%で、小学生、中学生、高校生と進むに従って、より肯定的に「学校で友達に会うのは楽しいと思う」と答えた児童生徒の割合が低くなった。



## 人が困っているときは、進んで助けていますか。

○「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた“当てはまる”と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 84.4%、中学2年生 79.0%、高校2年生 80.8%だった。

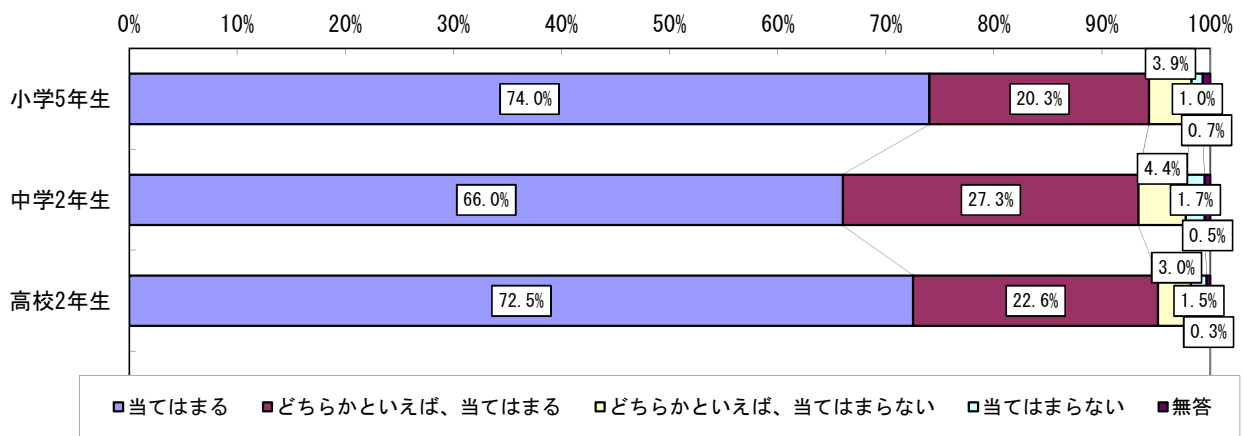
○このうち、「当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 34.4%、中学2年生 21.2%、高校2年生 23.3%で、より肯定的に「人が困っているときは、進んで助けている」と答えた児童生徒の割合は、中学生が最も低かった。



**人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。**

○「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた“当てはまる”と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 94.3%、中学2年生 93.3%、高校2年生 95.1%で、いずれも9割以上が「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」と答えた。

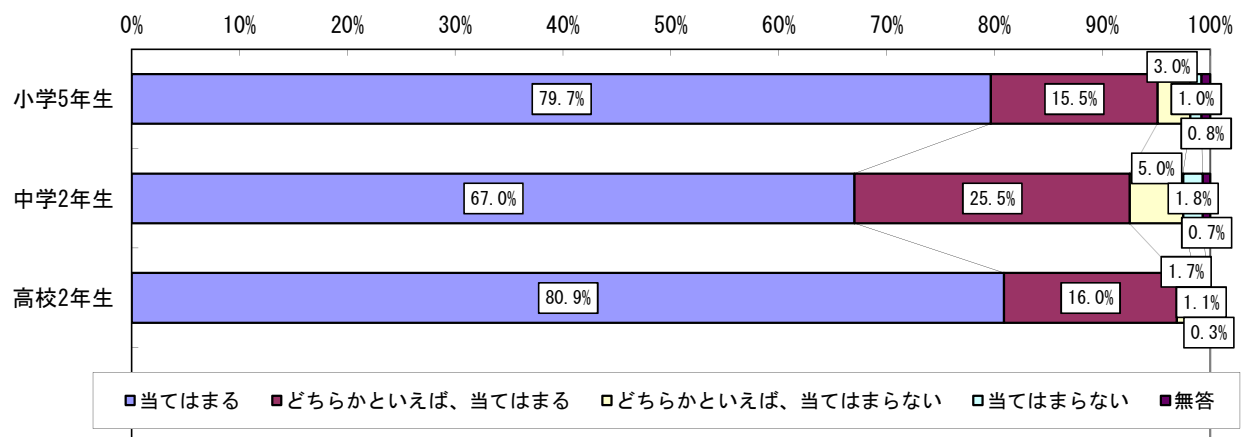
○このうち、「当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 74.0%、中学2年生 66.0%、高校2年生 72.5%で、より肯定的に「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」と答えた児童生徒の割合は、中学生が最も低かった。



**いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。**

○「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた“当てはまる”と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 95.2%、中学2年生 92.5%、高校2年生 96.9%で、いずれも9割以上が「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と答えた。

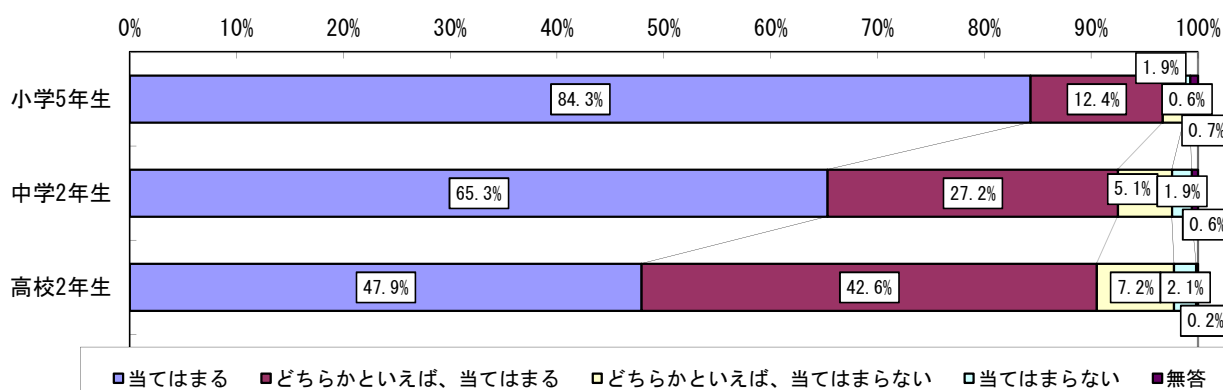
○このうち、「当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 79.7%、中学2年生 67.0%、高校2年生 80.9%で、より肯定的に「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と答えた児童生徒の割合は、中学生が最も低かった。



### 学校のきまり(規則)を守ることは大切だと思いますか。

○「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた「当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 96.7%、中学2年生 92.5%、高校2年生 90.5%で、いずれも9割以上が「学校のきまり(規則)を守ることは大切であると思う」と答えた。

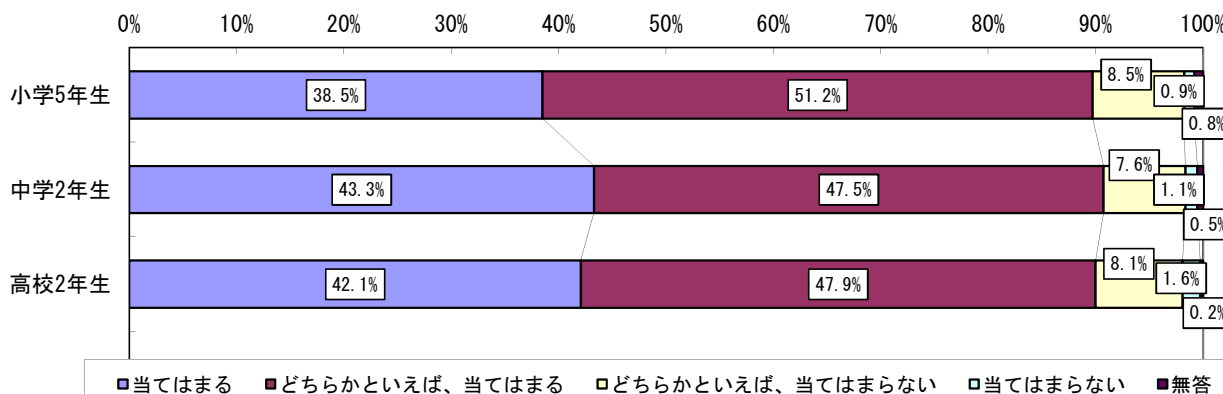
○このうち、「当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 84.3%、中学2年生 65.3%、高校2年生 47.9%で、小学生、中学生、高校生と進むに従って、より肯定的に「学校のきまり(規則)を守ることは大切であると思う」と答えた児童生徒の割合が低くなった。



### 学校のきまり(規則)を守っていますか。

○「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた「当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 89.7%、中学2年生 90.8%、高校2年生 90.0%で、いずれも、ほぼ9割が「学校のきまり(規則)を守ってる」と答えた。

○小学生、中学生、高校生のいずれも、「学校のきまり(規則)を守ることは大切であると思う」と答えた児童生徒の割合よりも、「学校のきまり(規則)を守ってる」と答えた児童生徒の割合の方が低く、その差は、小学生が最も大きかった。

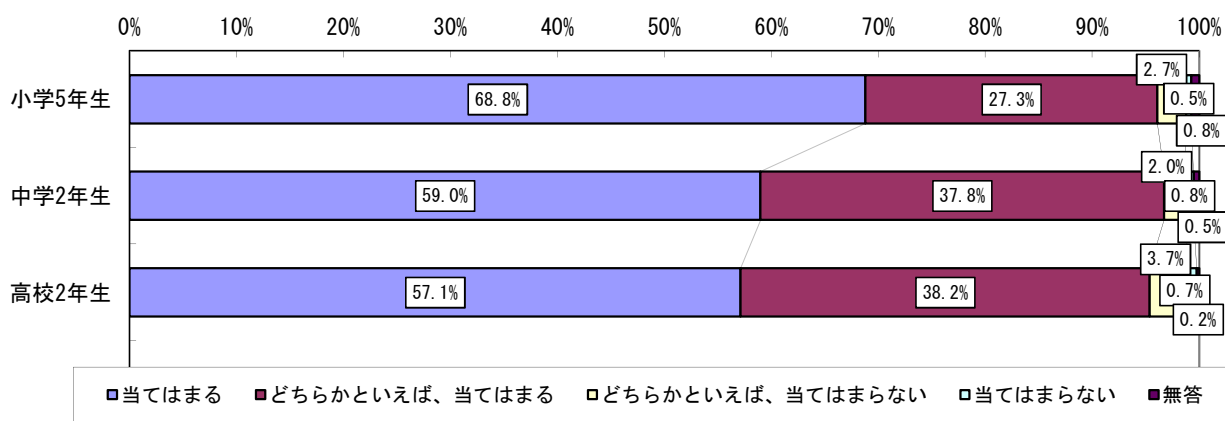




### 友達との約束を守っていますか。

○「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた「当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 96.1%、中学2年生 96.8%、高校2年生 95.3%で、いずれも9割以上が「友達との約束を守っている」と答えた。

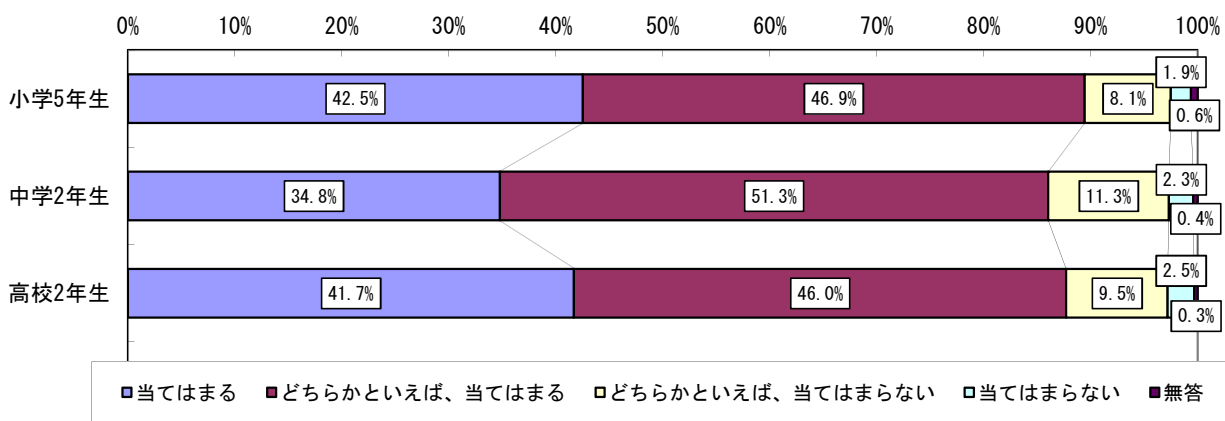
○このうち、「当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 68.8%、中学2年生 59.0%、高校2年生 57.1%で、より肯定的に「友達との約束を守っている」と答えた児童生徒の割合は、小学生が最も高かった。



### 時間を守っていますか。

○「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた「当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 89.4%、中学2年生 86.1%、高校2年生 87.7%だった。

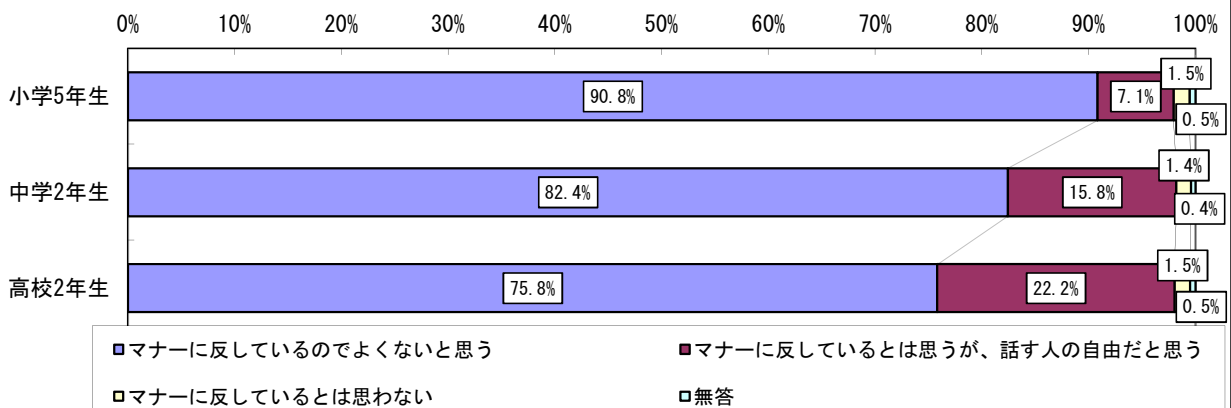
○このうち、「当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 42.5%、中学2年生 34.8%、高校2年生 41.7%で、より肯定的に「時間を守っている」と答えた児童生徒の割合は、中学生が最も低かった。



電車の中や駅など知らない人が多くいる所で、大声で話すことについて、どう思いますか。

○「マナーに反しているのでよくないと思う」と「マナーに反しているとは思いますが、話す人の自由だと思う」を合わせた「マナーに反していると思う」と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 97.9%、中学2年生 98.2%、高校2年生 98.0%で、いずれも9割以上が「電車の中や駅など知らない人が多くいる所で、大声で話すことは、マナーに反していると思う」と答えた。

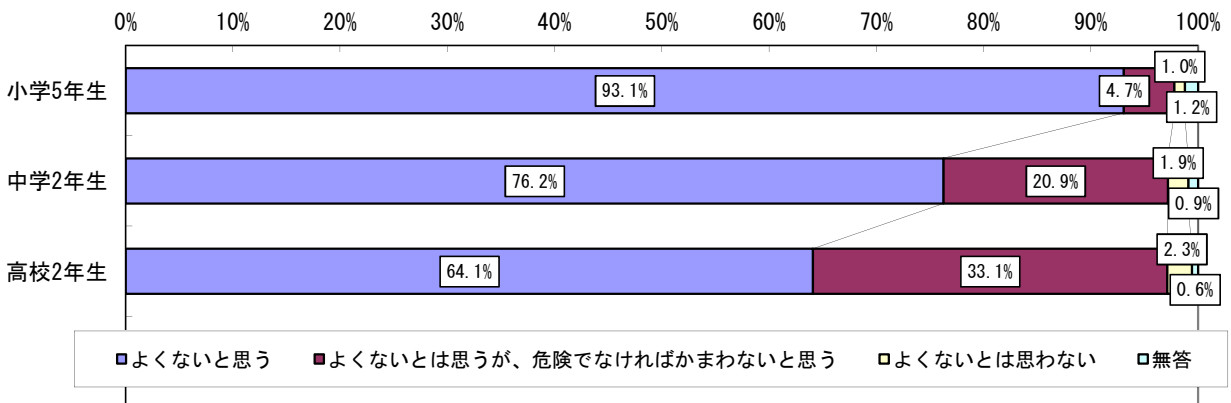
○このうち、「マナーに反しているのでよくないと思う」と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 90.8%、中学2年生 82.4%、高校2年生 75.8%で、小学生、中学生、高校生と進むに従って、「電車の中や駅など知らない人が多くいる所で、大声で話すことは、よくないと思う」と答えた児童生徒の割合が低くなった。



自転車の二人乗りや信号無視など、交通ルールを守らないことについて、どう思いますか。

○「よくないと思う」と「よくないとは思いますが、危険でなければかまわないと思う」を合わせた「よくないと思う」と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 97.8%、中学2年生 97.1%、高校2年生 97.2%で、いずれも9割以上が「交通ルールを守らないことはよくないと思う」と答えた。

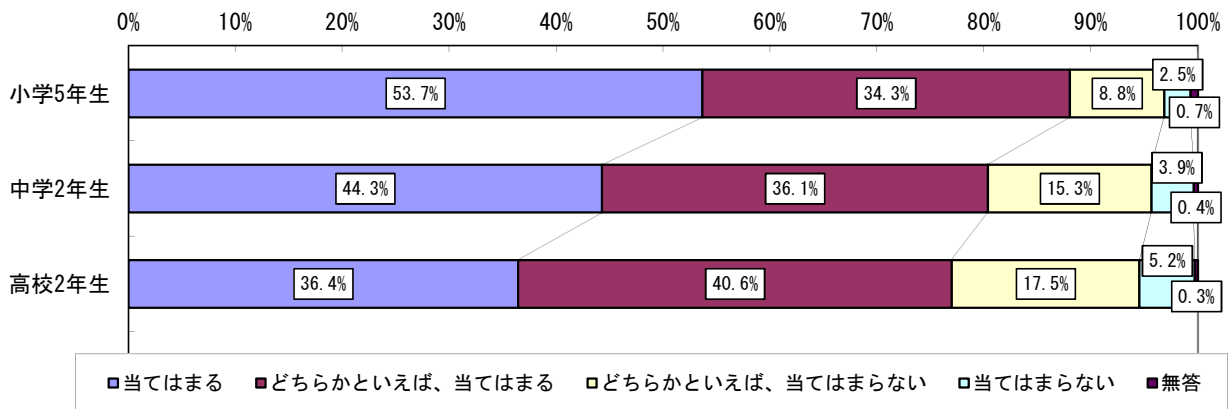
○このうち、「よくないと思う」と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 93.1%、中学2年生 76.2%、高校2年生 64.1%で、小学生、中学生、高校生と進むに従って、より肯定的に「交通ルールを守らないことはよくないと思う」と答えた児童生徒の割合が低くなった。



**近所の人に出会ったときは、挨拶をしていますか。**

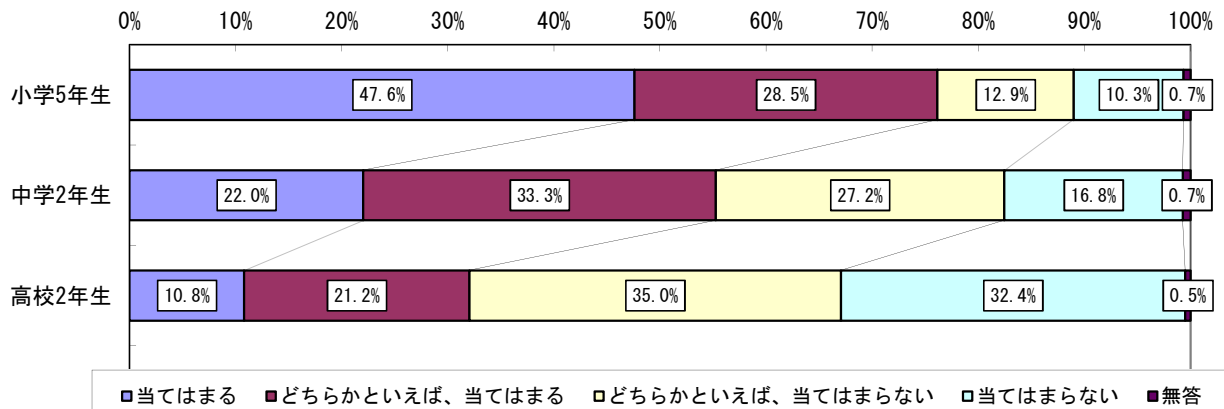
○「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた「当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 88.0%、中学2年生 80.4%、高校2年生 77.0%だった。

○このうち、「当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 53.7%、中学2年生 44.3%、高校2年生 36.4%で、小学生、中学生、高校生と進むに従って、より肯定的に「近所の人に出会ったときは、挨拶をしている」と答えた児童生徒の割合が低くなった。



**今住んでいる地域の行事に参加していますか。**

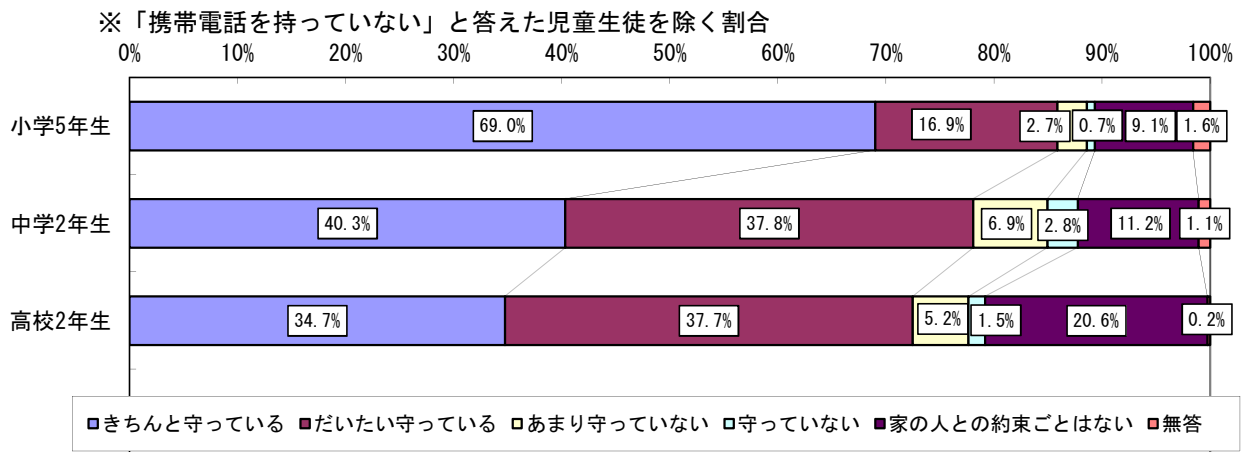
○「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた「当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 76.1%、中学2年生 55.3%、高校2年生 32.0%で、小学生、中学生、高校生と進むに従って、「今住んでいる地域の行事に参加している」と答えた児童生徒の割合が低くなった。



**携帯電話の使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。**

○「携帯電話を持っていない」と答えた児童生徒(小学5年生 64.3%、中学2年生 47.6%、高校2年生 2.0%)を除く者のうち、「きちんと守っている」と「だいたい守っている」を合わせた“守っている”と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 85.9%、中学2年生 78.1%、高校2年生 72.4%で、「携帯電話の使い方について、家の人と約束したことを守っている」と答えた児童生徒の割合は、小学生が最も高かった。

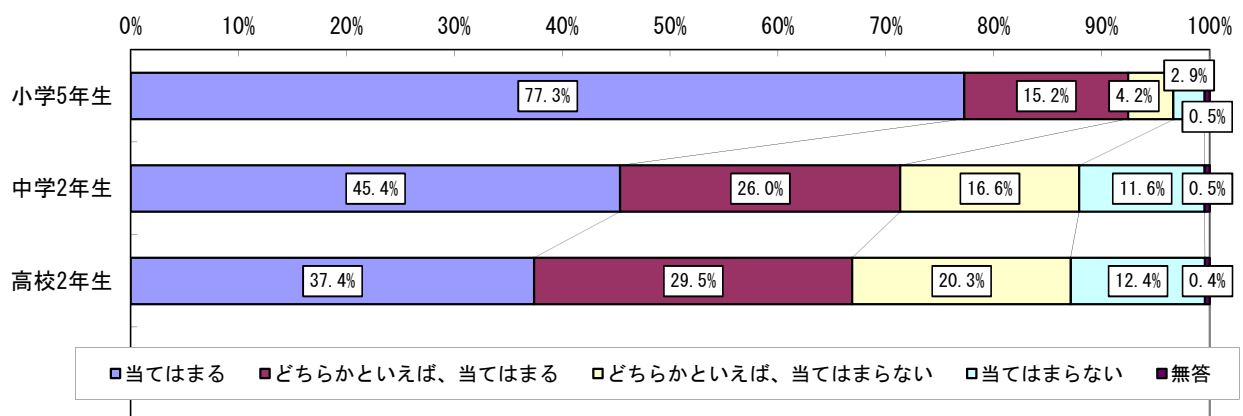
○また、「家の人との約束ごとはない」と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 9.1%、中学2年生 11.2%、高校2年生 20.6%で、高校生が最も高かった。



## 2 「自らの人生をたくましく切り拓き、社会に生かすことのできる人間」を育てるために

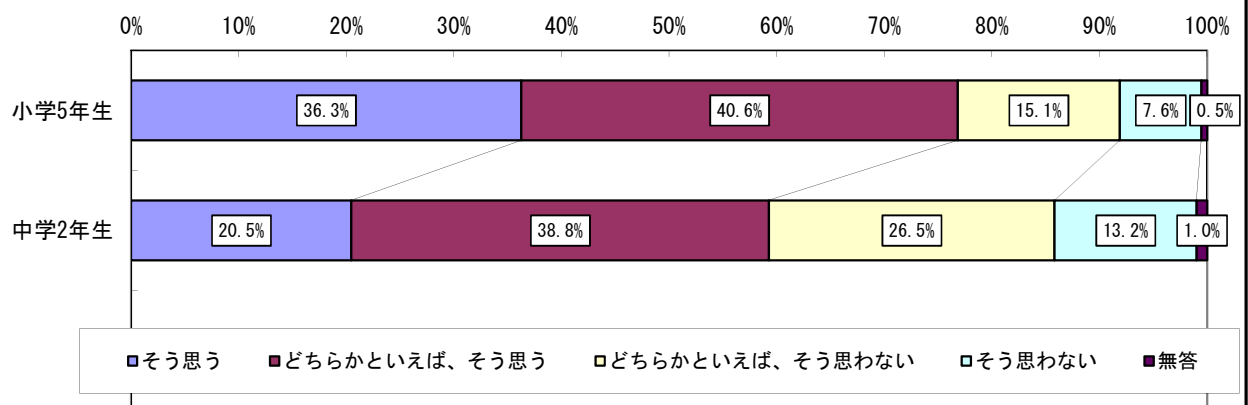
将来の夢や自信を持っていますか。

○「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた“当てはまる”と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 92.5%、中学2年生 71.4%、高校2年生 66.9%で、小学生、中学生、高校生と進むに従って、「将来の夢や自信を持つてる」と答えた児童生徒の割合が低くなった。



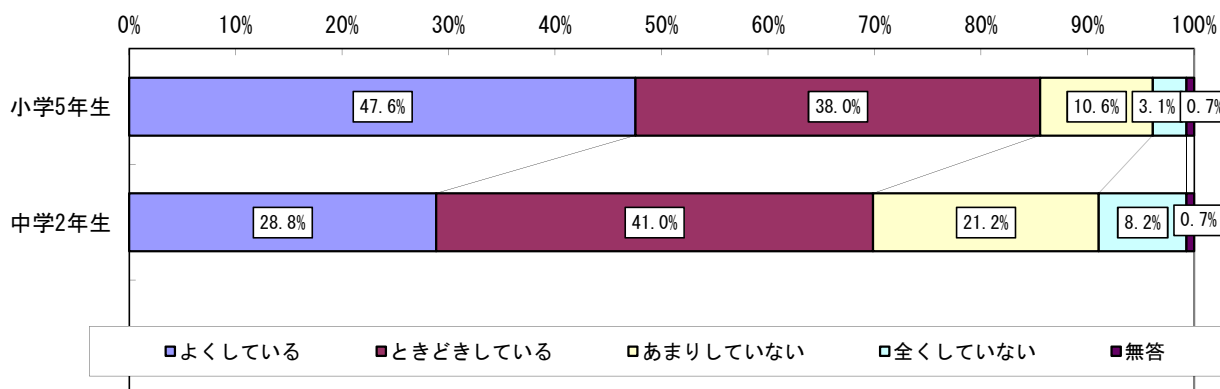
自分によいところがあると思いますか。

○「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた“そう思う”と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 76.9%、中学2年生 59.3%で、小学生よりも中学生の方が、「自分によいところがあると思う」と答えた児童生徒の割合が低かった。



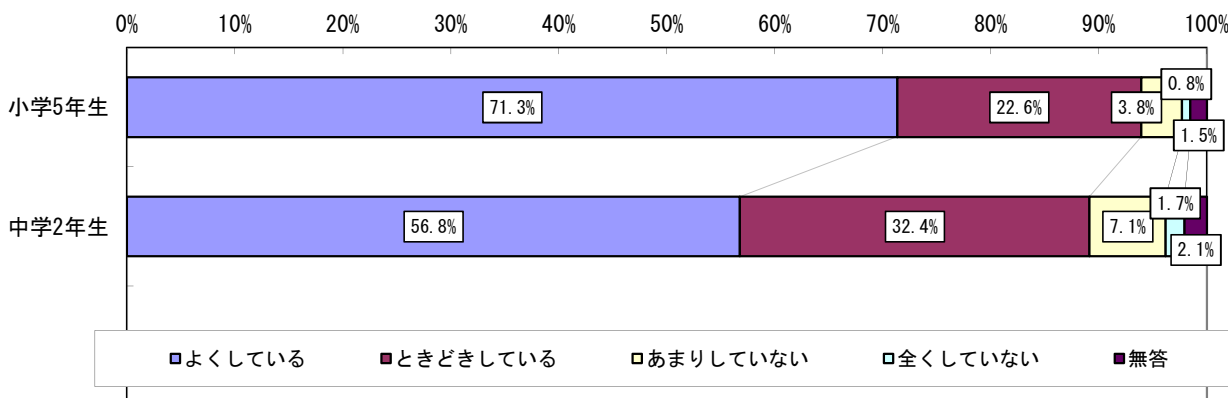
### 家の手伝いをしていますか。

○「よくしている」と「ときどきしている」を合わせた“している”と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 85.6%、中学2年生 69.8%で、小学生よりも中学生の方が、「家の手伝いをしている」と答えた児童生徒の割合が低かった。



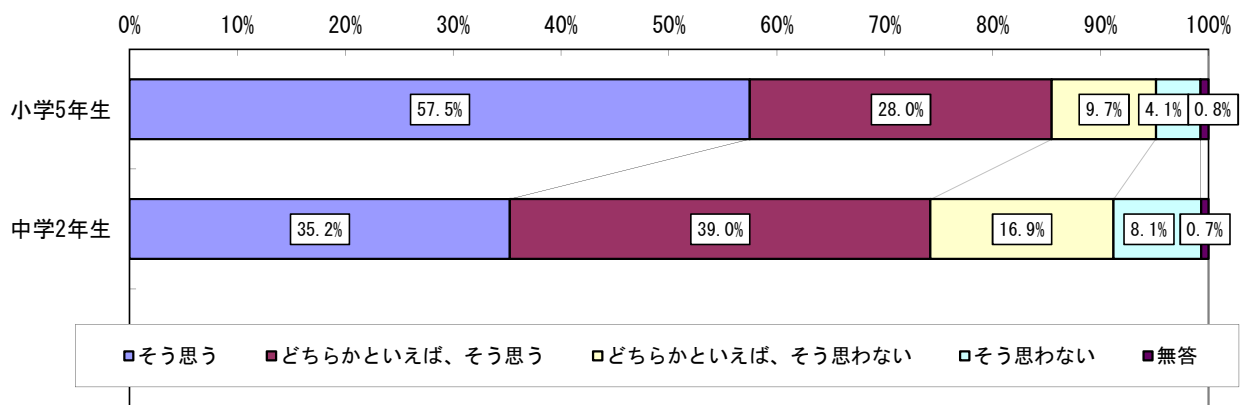
### 学校の係活動や当番活動にしっかり取り組んでいますか。

○「よくしている」と「ときどきしている」を合わせた“している”と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 93.9%、中学2年生 89.2%で、小学生よりも中学生の方が、「学校の係活動や当番活動にしっかり取り組んでいる」と答えた児童生徒の割合が低かった。



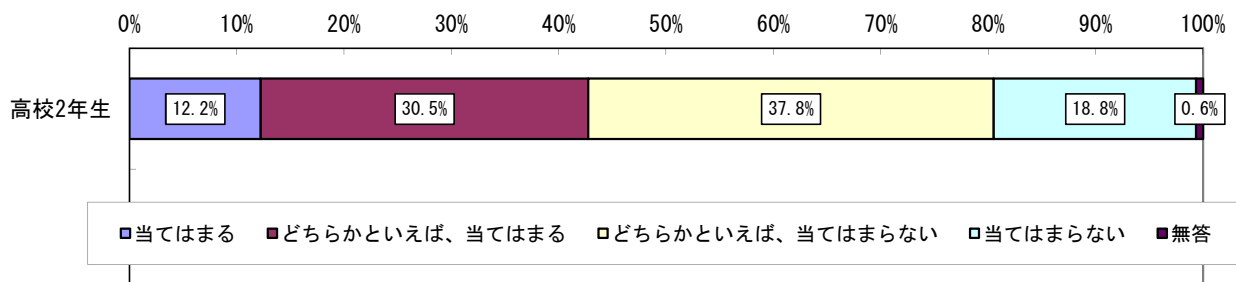
**学校の学習が将来の夢や希望をかなえるために役立つと思いますか。**

○「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた“そう思う”と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 85.5%、中学2年生 74.2%で、小学生よりも中学生の方が、「学校の学習が将来の夢や希望をかなえるために役立つと思う」と答えた児童生徒の割合が低かった。



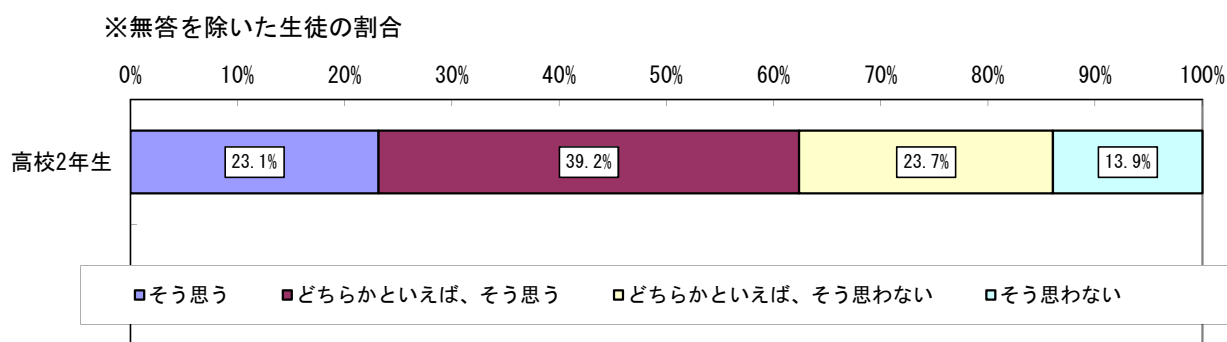
**目標を実現するために計画を立てて行動していますか。**

○「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた“当てはまる”と答えた高校2年生の割合は 42.7%だった。



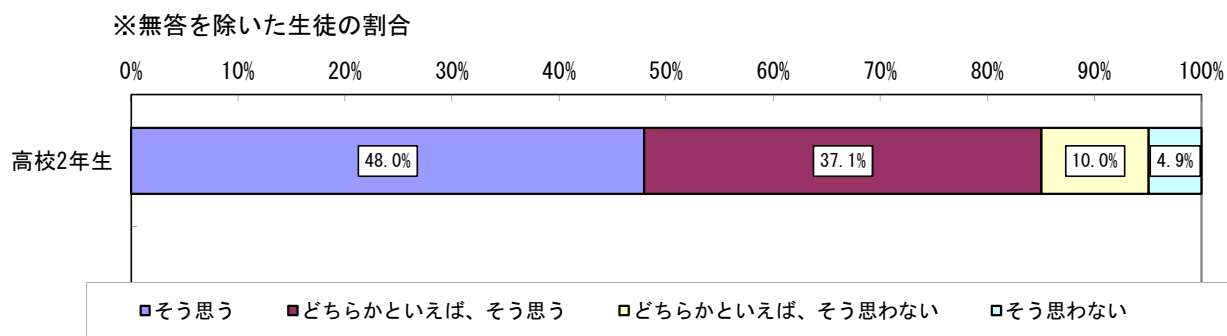
**[職場体験、インターンシップ、ジョブシャドウイングを体験した人にお聞きします]**  
**自らの進路選択について考えるきっかけとなりましたか。**

○「無答(16.8%)」を除いた生徒のうち、「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた“そう思う”と答えた高校2年生の割合は 62.3%だった。



**[職場体験、インターンシップ・ジョブシャドウイングを体験した人にお聞きします]**  
**マナーや言葉づかいの大切さを理解することができましたか。**

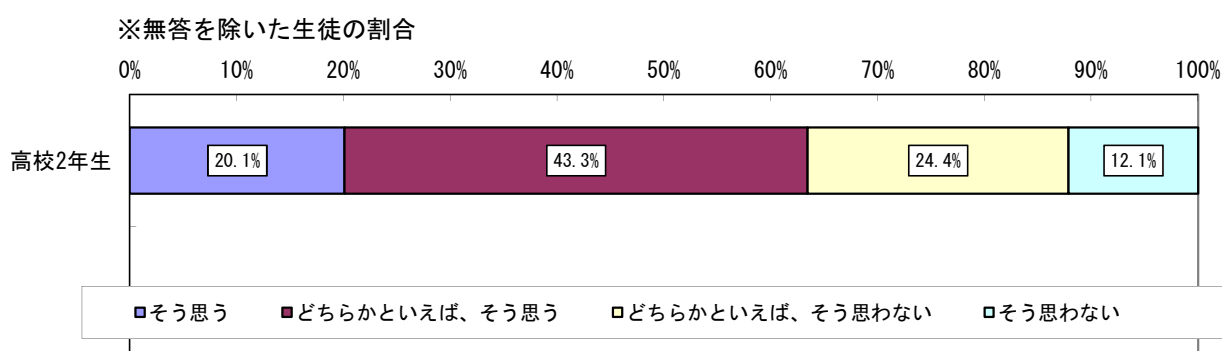
○「無答(17.2%)」を除いた生徒のうち、「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた“そう思う”と答えた高校2年生の割合は 85.1%だった。





[大学の講座や、大学・研究所・企業などでの研究や実習を体験した人にお聞きします]  
体験を通して、日々の学習の意義を確認することができましたか。

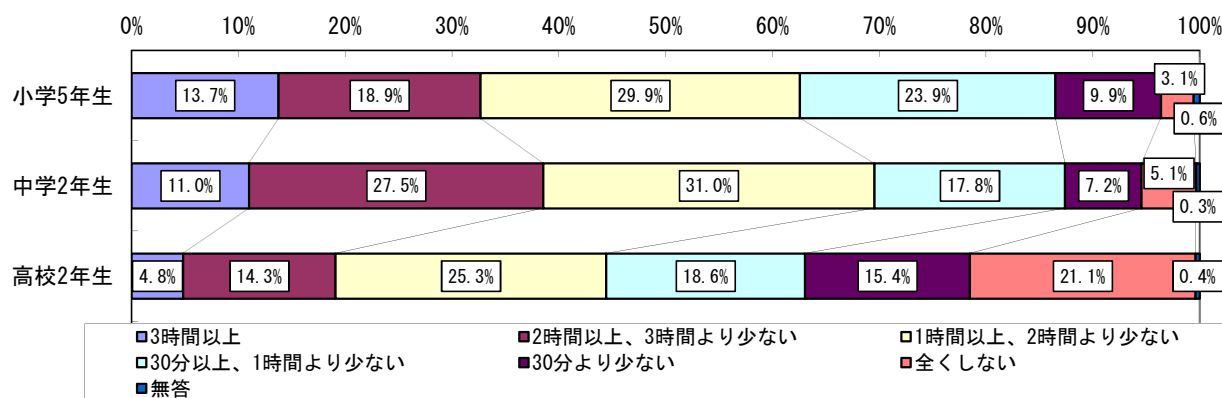
○「無答(54.2%)」を除いた生徒のうち、「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた“そう思う”と答えた高校2年生の割合は、63.4%だった。



学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。  
(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間もふくみます。)

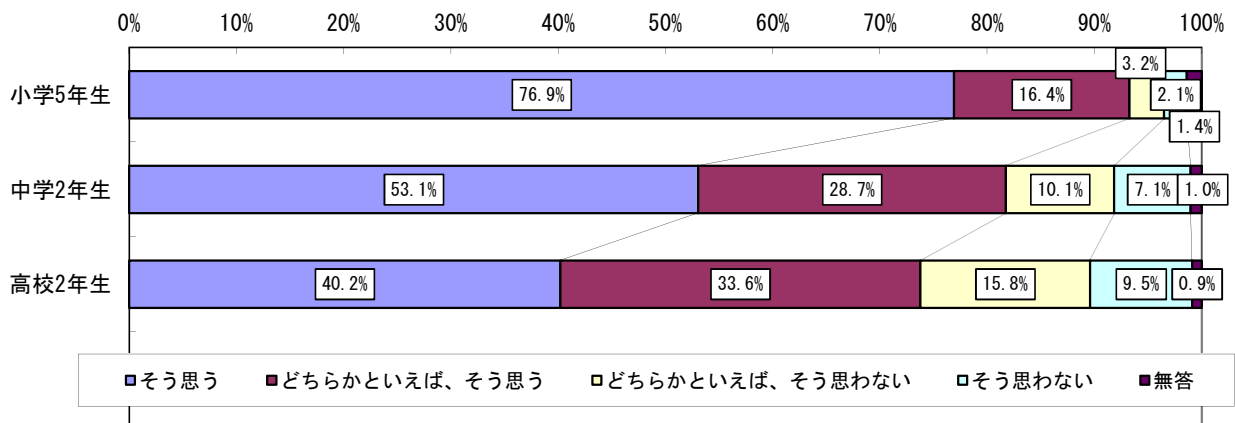
○「3時間以上」と「2時間以上、3時間より少ない」と「1時間以上、2時間より少ない」を合わせた“1時間以上”と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 62.5%、中学2年生 69.5%、高校2年生 44.4%で、「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日あたり1時間以上勉強をしている」と答えた児童生徒の割合は、中学生が最も高かった。

○「全くしない」と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 3.1%、中学2年生 5.1%、高校2年生 21.1%で、「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、全く勉強をしない」と答えた児童生徒の割合は、高校生が最も高かった。



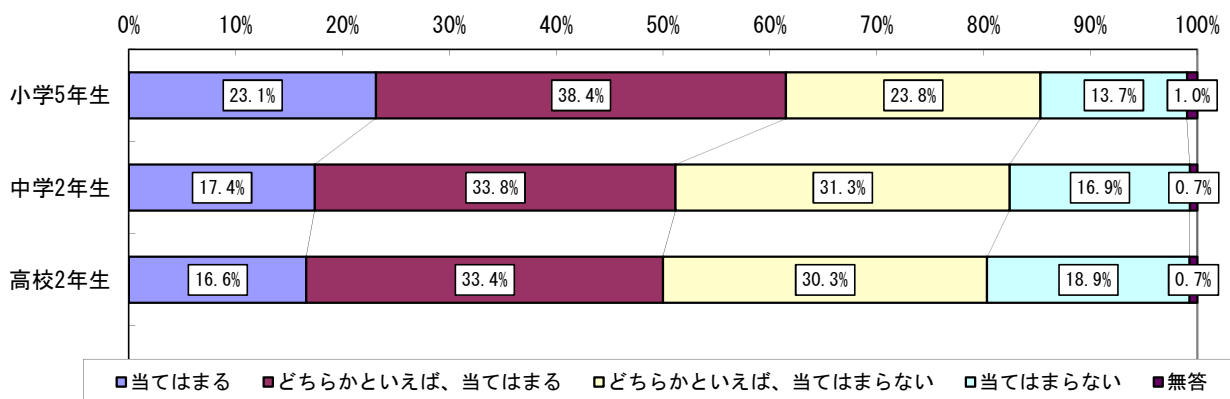
### 学校で好きな授業がありますか。

○「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた“そう思う”と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 93.3%、中学2年生 81.8%、高校2年生 73.8%で、小学生、中学生、高校生と進むに従って、「学校で好きな授業がある」と答えた児童生徒の割合が低くなった。



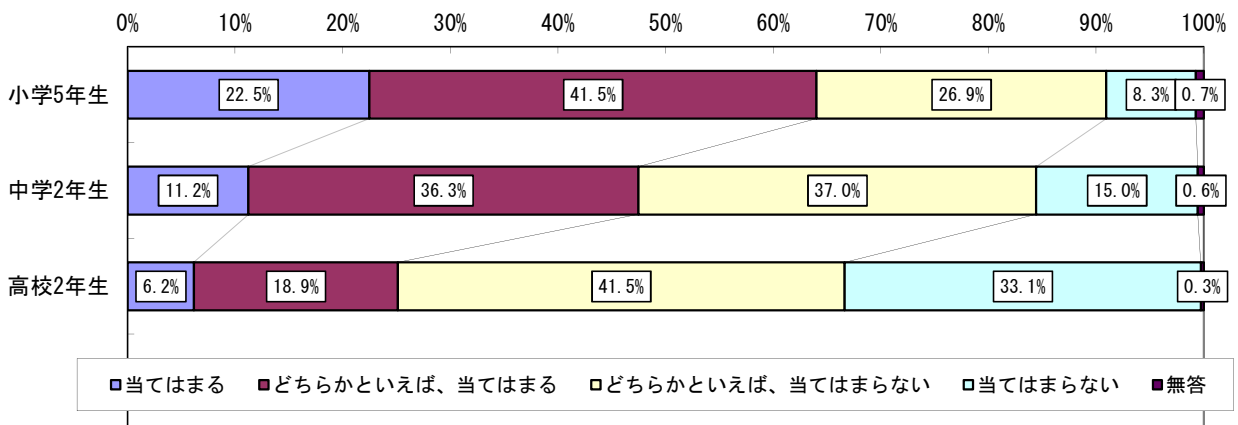
### 国語の勉強は好きですか。

○「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた“当てはまる”と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 61.5%、中学2年生 51.2%、高校2年生 50.0%で、「国語の勉強は好きだ」と答えた児童生徒の割合は、小学生が最も高かった。



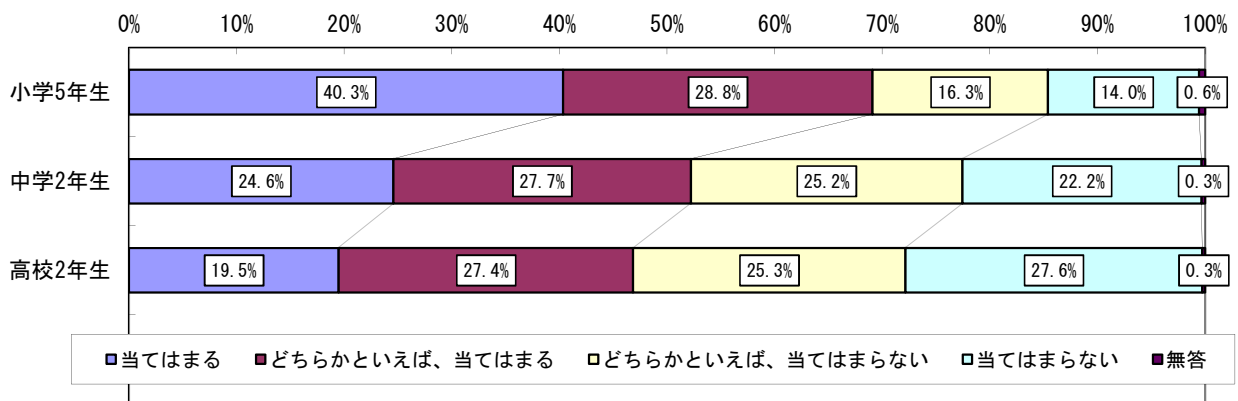
**国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。**

○「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた「当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 64.0%、中学2年生 47.5%、高校2年生 25.1%で、小学生、中学生、高校生と進むに従って、「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている」と答えた児童生徒の割合が低くなった。



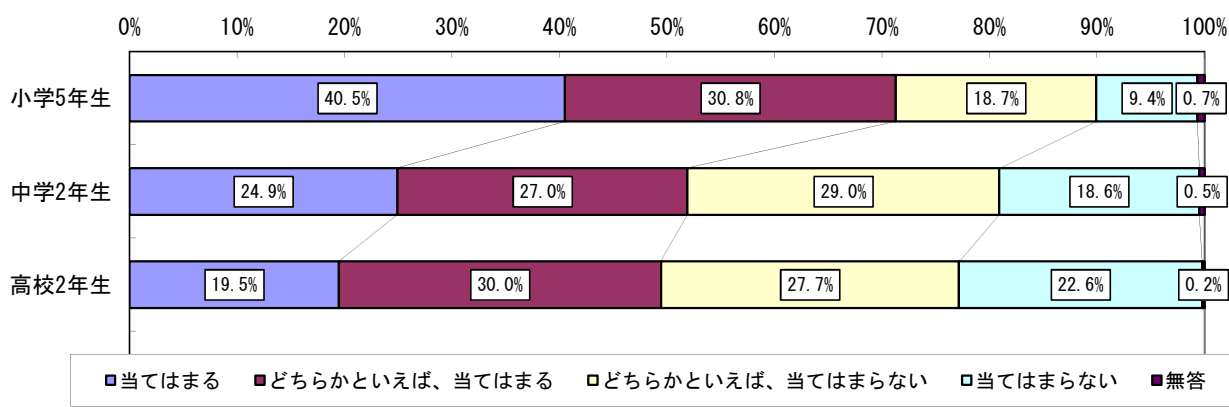
**算数(数学)の勉強は好きですか。**

○「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた「当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 69.1%、中学2年生 52.3%、高校2年生 46.9%で、小学生、中学生、高校生と進むに従って、「算数(数学)の勉強は好きだ」と答えた児童生徒の割合が低くなった。



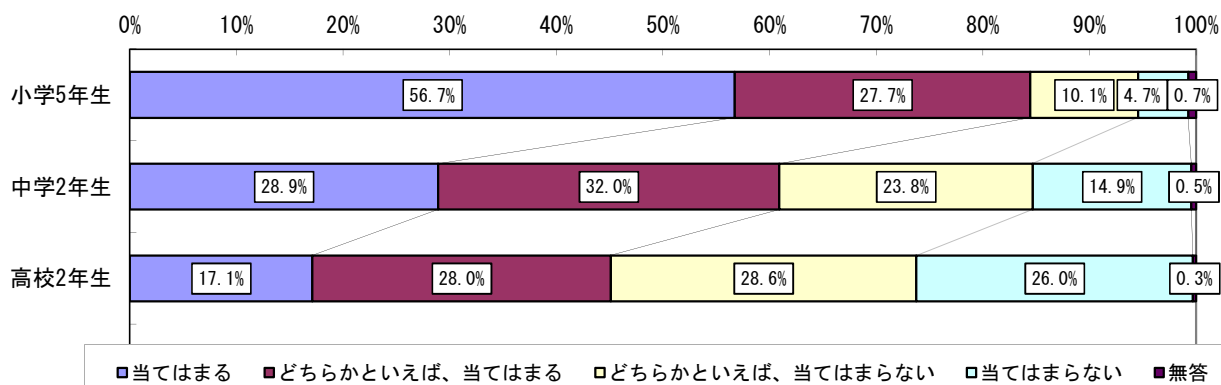
**算数(数学)の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。**

○「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた“当てはまる”と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 71.3%、中学2年生 51.9%、高校2年生 49.5%で、「算数(数学)の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える」と答えた児童生徒の割合は、小学生が最も高かった。



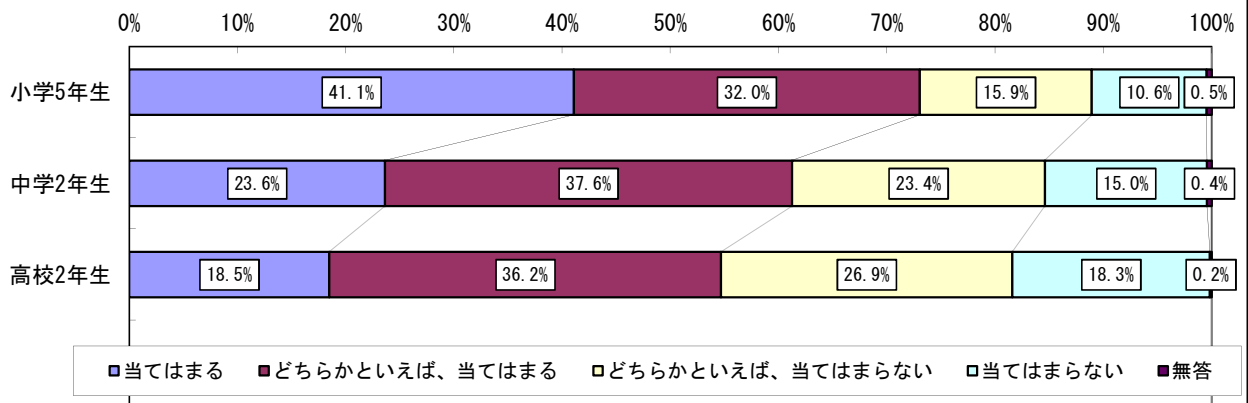
**理科の勉強は好きですか。**

○「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた“当てはまる”と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 84.4%、中学2年生 60.9%、高校2年生 45.1%で、小学生、中学生、高校生と進むに従って、「理科の勉強は好きだ」と答えた児童生徒の割合が低くなった。



新聞を読んだりニュースを見たりしていますか。

○「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた“当てはまる”と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 73.1%、中学2年生 61.2%、高校2年生 54.7%で、小学生、中学生、高校生と進むに従って、「新聞を読んだりニュースを見たりしている」と答えた児童生徒の割合が低くなった。

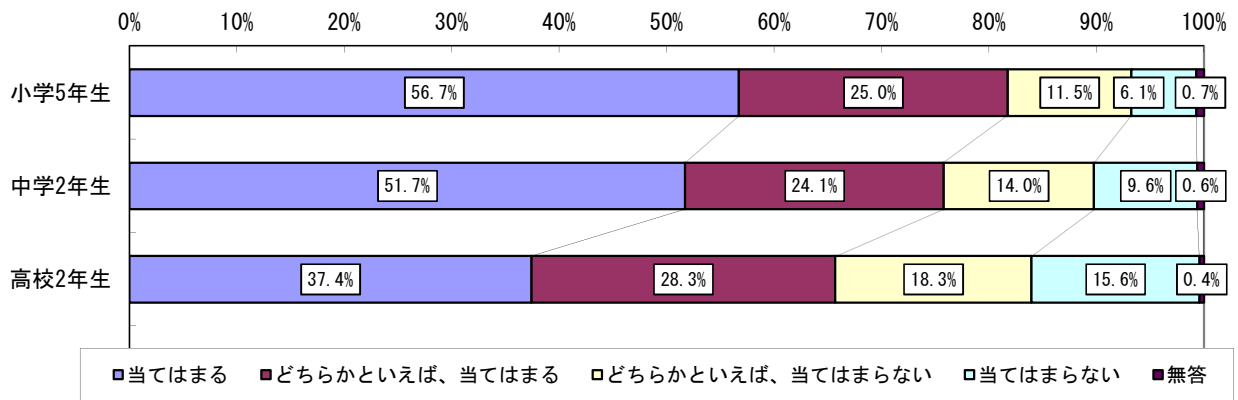


### 3 「健やかな体をつちかい、豊かな文化を継承し創造することのできる人間」を育てるために

読書は好きですか。

○「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた“当てはまる”と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 81.7%、中学2年生 75.8%、高校2年生 65.7%で、小学生、中学生、高校生と進むに従って、「読書は好きだ」と答えた児童生徒の割合が低くなった。

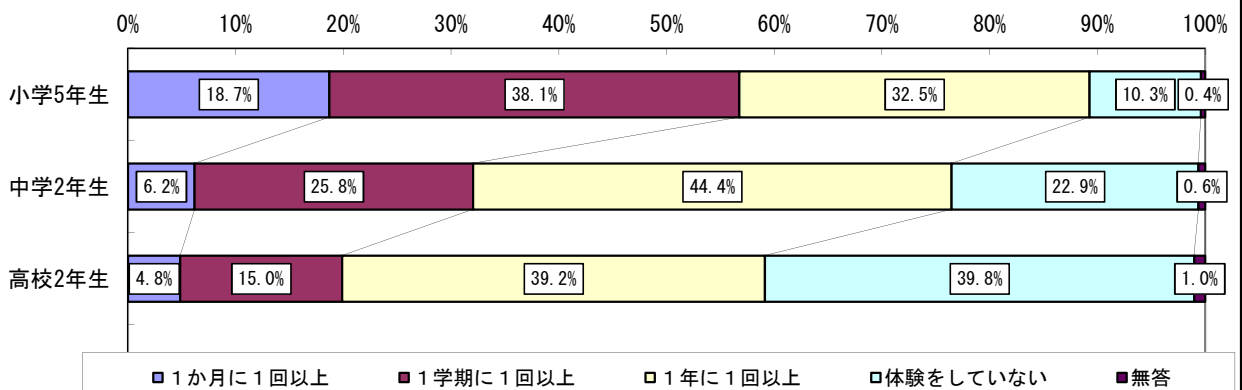
、



あなたはこの1年間、学校の授業以外で、どの程度、文化や芸術の体験(習い事はふくまない)をしましたか。

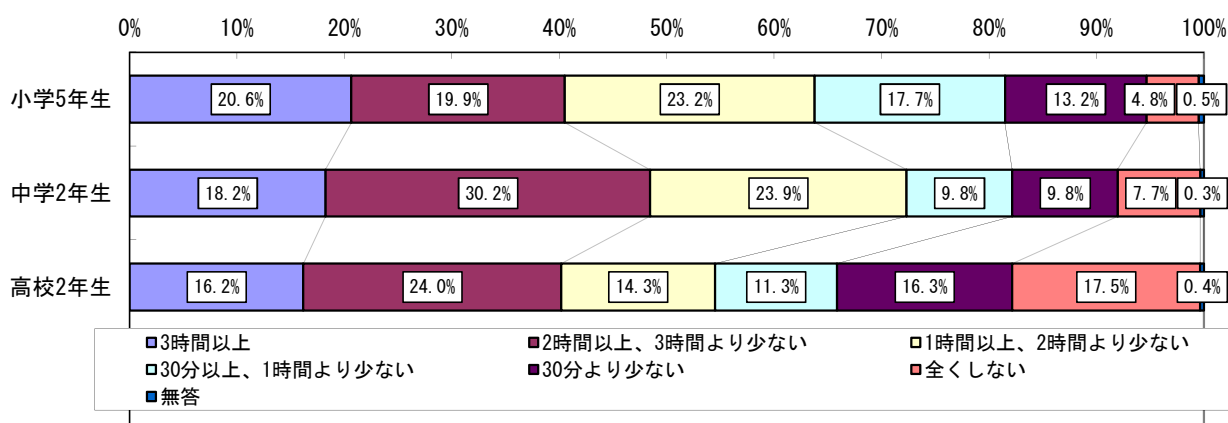
○「1か月に1回以上」と「1学期に1回以上」と「1年に1回以上」を合わせた“1回以上”と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 89.3%、中学2年生 76.4%、高校2年生 59.0%で、小学生、中学生、高校生と進むに従って、「この1年間、学校の授業以外で、1回以上、文化や芸術の体験をした」と答えた児童生徒の割合が低くなった。

○「体験をしていない」と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 10.3%、中学2年生 22.9%、高校2年生 39.8%で、「この1年間、学校の授業以外で、文化や芸術の体験をしていない」と答えた児童生徒の割合は、高校生が最も高かった。



平日(月～金曜日)には、1日にどれくらいの時間、運動やスポーツをしていますか。  
(体育の授業をのぞきます。)

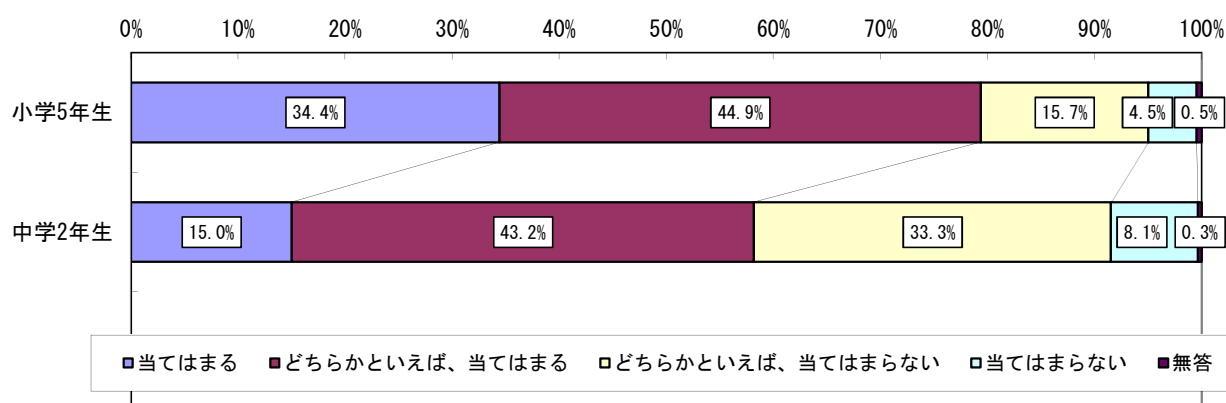
- 「3時間以上」と「2時間以上、3時間より少ない」と「1時間以上、2時間より少ない」を合わせた「1時間以上」と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 63.7%、中学2年生 72.3%、高校2年生 54.5%で、「平日(月～金曜日)には、1日に1時間以上、運動やスポーツをしている」と答えた児童生徒の割合は、中学生が最も高かった。
- 「全くしない」と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 4.8%、中学2年生 7.7%、高校2年生 17.5%で、「平日(月～金曜日)には、全く運動やスポーツをしない」と答えた児童生徒の割合は、高校生が最も高かった。



#### 4 「次代を展望し、世界に視野を広げ活動することのできる人間」を育てるために

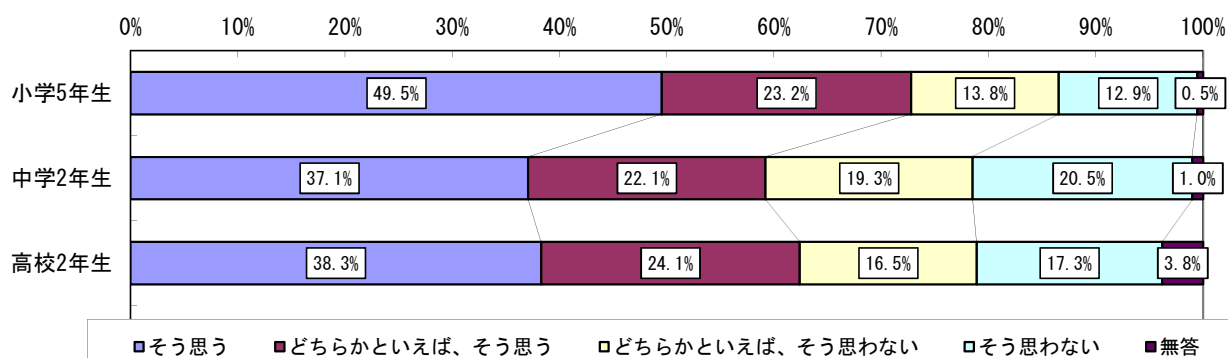
難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか。

○「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた“当てはまる”と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 79.3%、中学2年生 58.2%で、小学生よりも中学生の方が、「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している」と答えた児童生徒の割合が低かった。



外国語が話せるようになって自分で外国に行ってみたいですか。

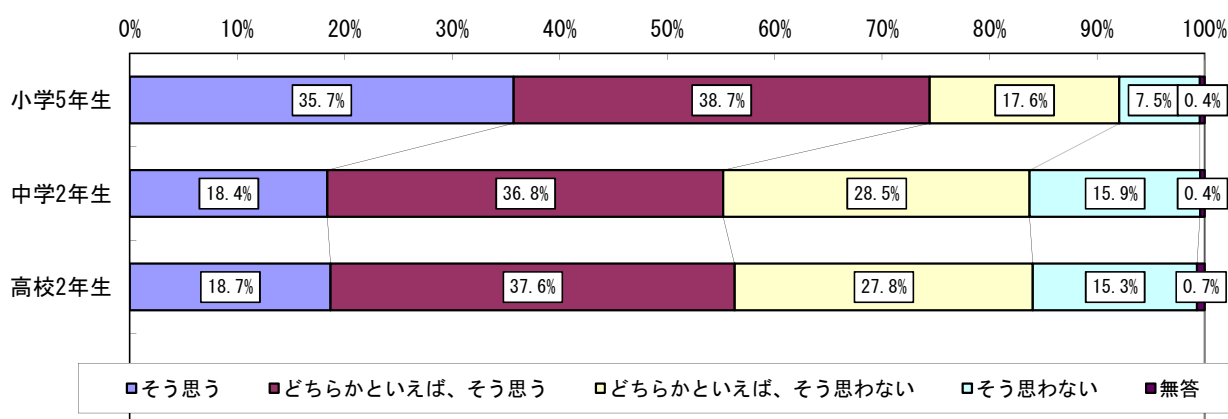
○「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた“そう思う”と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 72.7%、中学2年生 59.2%、高校2年生 62.4%で、「外国語が話せるようになって自分で外国に行ってみたい」と答えた児童生徒の割合は、小学生が最も高かった。





大人になっても、自然やエネルギー、外国のことなど、いろいろと興味をもって勉強したいと思いますか。

○「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた“そう思う”と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 74.4%、中学2年生 55.2%、高校2年生 56.3%で、「大人になっても、自然やエネルギー、外国のことなど、いろいろと興味をもって勉強したい」と答えた児童生徒の割合は、小学生が最も高かった。



あなたは、地球の環境を守るために、暮らしの中で何かやっていることはありますか。

○「よくしている」と「ときどきしている」を合わせた“している”と答えた児童生徒の割合は、小学5年生 78.5%、中学2年生 64.7%、高校2年生 49.0%で、小学生、中学生、高校生と進むに従って、「地球の環境を守るために、暮らしの中で何かやっている」と答えた児童生徒の割合が低くなった。

